

《各種がん検診の注意事項》

皆様の健康を守るため、各種がん検診をぜひ受けて頂きたいと思っております。ただし、安全で有効に検診をお受け頂くためには、様々な注意点があります。安全のため、集団検診での受診ではなく、主治医やかかりつけ医での受診をお奨めする場合がありますのでご了承ください。受診をご希望される方には検診当日に確認させていただきますが、事前に以下の内容をご覧頂いておりますと、受診の際に参考になるかと思います。



肺がん検診

原則的に集団検診では実施できない人
★ 医療機関で肺がん、結核、その他の呼吸器疾患の治療中または経過観察中の人 ★ 妊婦および妊娠している可能性のある人 ★ 6ヶ月以内に血痰があった人
喀痰（かくたん）細胞診検査について
★ 対象者は、50歳以上で、かつ、喫煙係数（1日の本数×年数）が600以上の人 ★ 痰の採取にあたっては容器上部のシールをきれいにはがして、痰を入れた後、ただちに強く振とう（通常約50回位）し、痰を完全に溶かすようお願いします。



胃がん検診

胃がん検診の受診を希望される人へ
◎ 受診前日の午後10時以降から当日検診終了まで、何も食べないでください。 ◎ 飲水については、当日の朝7時までにコップ1杯程度（約150ml）の水は可とする。 ◎ 内服薬（血糖降下剤を除く）については、当日朝7時までにコップ1杯程度（約150ml）の水は内服可とする。 ◎ 当日の喫煙やガムは避けてください。
原則的に集団検診では実施できない人
★ 医療機関で胃がん、その他の胃腸疾患の治療中または経過観察中の人 ★ 妊婦および妊娠している可能性のある人 ★ 胃、食道、十二指腸、腸の切除術を受けた人 ★ 大腸憩室炎の既往がある人 ★ 人工透析中の人 ★ 便秘（3日以上）の人 ★ メニエール病の人 ★ 自力で体位変換が困難な人 ★ 体調不良の人 ★ 高齢の人 ★ 全身衰弱の強い人 ★ 受診前日の午後10時以降に食事された、または検査当日の午前7時以降に飲食（水も含む）された人 ★ 硫酸バリウム製剤に対し、過敏症（じんましん、喘息など）の既往歴のある人 ★ 今までに医療品や食品などで過敏反応を起こしたことのある人、喘息、アトピー性皮膚炎などがある人 ★ 誤嚥をおこす恐れのある人（高齢者、脳血管障害（脳梗塞・脳出血後）、嚥下困難、喘息など） ★ 過去1年以内に心疾患や脳血管疾患の発作、または手術を受けた人 ★ 認知症や精神疾患があり、指示通りに動くことのできない人 ★ 消化管の閉塞またはその疑いのある人 ★ 消化管に急性出血のある人、出血を生ずるおそれのある人 ★ 消化管の穿孔またはその疑いのある人、穿孔を生ずる恐れのある人



子宮頸がん検診

子宮がん検診の受診を希望される人へ

- ◎ 20歳以上の方は受診できます。
- ◎ 服装の準備をお願いします。(スカート、スリッパ着用等)

原則的に集団検診では実施できない人

- ★ 子宮全摘出術を受けた人
- ★ 妊娠中の人
- ★ 医療機関で子宮疾患の治療中または経過観察中の人
- ★ 生理中の人

問診時に受診ができるか判断する

- ★ 子宮の手術を受けた人
- ★ 6ヶ月以内に有症状がある人
- ★ 産後で月経が再開していない人
- (不正性器出血、月経異常、褐色帯下等)



乳がん検診

乳がん検診の受診を希望される人へ

- ◎ 40歳以上の方は受診できます。(受診数に制限がありますのでご注意ください)

原則的に集団検診では実施できない人

- ★ 妊婦および妊娠している可能性のある人
- ★ 豊胸術を受けている人(シリコン挿入、ヒアルロン酸注入等)
 - 圧迫(乳房を押さえる)時、破裂の恐れがある
 - 被曝線量が通常乳房の約2～3倍近くになる
 - 写真の診断ができない場合がある
- ★ 乳房内に器具・装置等を留置している
- 圧迫時、器具・装置がつぶれてしまう可能性がある
- ★ シャントの留置をしている
- 圧迫時、逆流する可能性がある
- ★ 医療機関で乳がん、その他の乳腺疾患の治療中または経過観察中の人
- ★ 授乳中や断乳後6か月以内の人
- 乳腺が発達しており、白く写りやすい

問診時や撮影時に受診できるか判断する

- ★ 乳房の手術を受けた人(管理状況や圧迫ができるかどうかなど)
- ★ 腕が上がらない人(リウマチ・五十肩・神経痛)
- ★ 出血傾向のある人(血小板減少症など)
- ★ 胸郭・脊椎変形、脊柱側弯のある人



前立腺がん検診

前立腺がん検診の受診を希望される人へ

- ◎ 50歳以上の男性は受診できます

原則的に集団検診では実施できない人

- ★ 前立腺がんて手術をした人
- ★ 医療機関で前立腺がん、その他の前立腺疾患の治療中または経過観察中の人



大腸がん検診

大腸がん検診の受診を希望される人へ

- ◎ 生理中の場合には、出血により結果が陽性になる可能性があります。
別の機会に受診されることをお奨めします。
- ◎ 痔疾患など出血症状のある方は、結果が陽性になる可能性があります、その場合でも、
自己判断をせずに、必ず精密検査を受診してください。
- ◎ 下痢をしている場合は、便の成分が少なく採取されがちです。
症状がおさまってから受診されることをおすすめします。

原則的に集団検診では実施できない人

- ★ 医療機関で大腸がん、その他の胃腸疾患の治療中または経過観察中の人

以上のがん検診は適度に高い発見率が期待でき、日本国内では有効性が確立されているといわれている検診(前立腺がん検診を除く)手法です。しかしながら、どのがん検診も目的のがんを100%みつけることができるものではありません。検診で「異常なし」といわれても、その結果を過信しないようにして自覚症状に注意するなど、今後もがん予防を心がけてください。また、検診で「要精密検査」という結果が出た場合は、かならず精密検査を受けるようにしましょう。

